

① 十字架の出来事

イエス様の十字架の出来事はここから始まります。イエス様は弟子たちとよく行っていたゲッセマネの園に行きます。沢山の人がイエス様の命を狙っている状況でそこに出かけるのは危険でした。イエス様を裏切った弟子のユダは、沢山の兵士や大祭司の手下を連れてきました。イエス様一人を捕まえるのに、そんなに多くの人を連れて来たことに驚きます。人々は勿論、武器を持っていたでしょう。普通なら怖くなりますがイエス様は前に進んで「誰を捜しているのか」と言います。彼らが「ナザレのイエスだ」と言うと、イエス様は「私である（エゴー・エイミ）」と言います。このやり取りが二回繰り返されます。「私である」という表現は、聖書では神様が「ここにいるよ」と人に伝える時に言う特別な言葉です。著者ヨハネは、ここでハッキリとイエス様は神様だと示しています。更に、その言葉を聞いた兵士たちが倒れてしまうほど、神様の言葉は力強いのです(6節)。そしてイエス様は「私を捜しているのなら、この人々は去らせなさい」と弟子たちを守りました(8節)。

② イエス様は、逮捕される

イエス様は弟子たちを逃がして自らは逮捕されます(8節)。そこでペトロともう一人の弟子はひそかに後をつけて行き、大祭司の中庭で炭火にあたって事の成り行きを見ることにしました(15～18節)。もう一人の弟子とは誰でしょう。大祭司の知り合いということはエルサレムに住む金持ちです。私はこのヨハネによる福音書の著者ではないかと思います。彼は顔パスでペトロを中に入れる事ができる人間です。焚火だと火に近づくると熱いですが、炭火だと近く寄り添って暖をとります。だからでしょうか、ペトロは女中、人々、僕らに「お前も弟子ではないのか」(17、25、26節)と言われてしまいます。ここで女の人がペトロを見て「あなたはあのイエスの弟子でしょう？」と聞いてきた時ペトロはとっさに「違う」と嘘をつきます。自分も捕まってしまうと思ったからです。こうして大好きなイエス様のことを三度も裏切ってしまったのです。十字架に立ち向かっていくイエス様の積極的な姿と、結局はイエス様を裏切ってしまうペトロの消極的な姿が対照的に書かれています。

③ イエス様は逃げない

今朝の聖書箇所では、武器を持った沢山の人がイエス様をつかまえに来た時、イエス様は逃げませんでした。つかまれば十字架につけられて死んでしまうことがわかっているにもかかわらず、イエス様は逃げませんでした。なぜ、逃げなかったのでしょうか。イエス様が逃げなかったのは、神様が私たちを大切にしてくださっていることを伝えるためでした。私たちはそんなイエス様の前向きに進んでいく姿にとっても励まされます。そしてどんな武器にも負けない、どんな悪いことにもおびえない、強く優しい神様の言葉を、私たちは今、聖書をとおして聞いています。「わたしである」と言った言葉は、私たちに対する「神様であるわたしがそばにいるから、安心していいよ」というメッセージです。私たちも、ペトロのように、怖がり、嘘つき、大切な家族や友達のことを悲しませてしまうことがあります。イエス様は、そのことをよく知っていて、それでも私たちを赦して、抱きしめてくださいます。「わたしである」と言ったイエス様は、いつもあなたと一緒にいるよ、どんな時も離れないよと約束しています。そのしるしが十字架です。十字架には、私たちにとって、とんでもなく大きい神様の愛情がたっぷりと込められています。イエス様を固く信じて、ご一緒しましょう！